「建設業界への最終通告！進化か消滅か」

「建設復興」の著者 倉見氏が来鹿

「地域密着」の本質見極めを

「建設復興」「建設業界への最終通告！進化か消滅か」（ともに中央出版発行）の著者であり、全国各地で建設業コンサルティング活動などを行っている倉見康一氏が㈱吉丸組の創業55周年記念セミナーで来鹿。今求められている建設業について同氏に聞いた。

（聞き手＝前原和彦・企画部総括主任）

CBCCグループ代表
税理士・行政書士
倉見 康一 氏

《プロフィール》

京都市生まれ。関西大学法学部卒業後、税理士事務所を開設。その後、経営コンサルティング業務を開始。建設業コンサルティングの分野では『CBCC経営者倶楽部』を組織し、全国各地の建設会社に対して経営情報を発信するとともに、「建設サービス業」「施工サービス専業」「土木会社再生モデル」など独自に開発したノウハウにより幅広くコンサルティング活動および研修サービスを行っている。

まずはアクションから

――各地での講演やセミナーの手ごたえは

反響が大きく、全国各地に講演やセミナーに呼ばれて、実際にコンサルティングを行うこともあります。

でも残念なことに、わざわざ話を聞きに来られてもその後のアクションがない。「変われない」のか「変わろうとしない」のか「方法が分からない」のか「方法が分かっても一歩を踏み出せない」のか…。

ただ一つだけはっきり言えることは、うまくいく確証がないことが出足を鈍らせている。成功した事例を数多く挙げることで「できるのかな」という気にさせることがわたしの役目でもある。

――変わるために会社規模が関係するのか

「2・6・2の法則」といって会社規模とは無関係で、2割が会社理念を理解してよく働き、6割が普通、2割が会社の足を引っ張るのが一般的。大企業では教育レベルは高いものがあるが従業員が多く、慣例や理屈が妨げになる場合もある。その点、中小企業の方が意思疎通を交わしやすいためアクションを起こしやすい。

――鹿児島における建設業については

地方に共通して言えることだが「地域に根差した企業」とうたう会社は多いが、地場の大企業ほど地元に密着していない。また、需要はいくらでもあるにも関わらず、掘り起こしをしようとしていないのが現実。

先程も述べたがセミナーや講演会に参加しただけでは無意味。話を聞いて何かしら心に響くものがあったらアクションを起こすべき。明治維新を起こした鹿児島の土地ならではの行動力に期待したい。

――われわれ専門新聞は今後どうあるべきか

ニュースを伝えるとか、先行して公共工事の計画記事を取り上げるとかだけでなく、もっと本質的な部分で幅広く経営指導・コンサルティングできる、もしくは読者である建設業者へ生き残れる術や指針となるきっかけを提供していくことが必要では。例えば、専門新聞協会加盟の各新聞社と連携をとって全国各地の先進事例や成功事例を連載で掲載するとか。

福島県の建設業の専門紙では以前、顧客サービスの一環として新聞社主催でセミナーが開催され私が呼ばれた。新聞社にとっては一心同体である建設業者に生き残っていただく術を提供する使命があるはずだ。

――ありがとうございました。最後に一言お願いします

「建設業」はすばらしい市場です。ただここ数十年は公共工事に依存しすぎてしっぺ返しを受けている。高度成長期を機に「仕事はあるものだ」「天から降ってくるものだ」と錯覚するようになった。今では官製談合や耐震偽装などを機に万民の目が肥えてきている。だからこそ、誠実にまじめに正しいことをやっていけば必ず受注は増える。

そもそも商売の原理は今も昔も同じ。富山の薬売りの手法が原点であり、今この時代に一番求められている手法の一つである。今こそ「地域密着」の本質を見極めることが大切です。

吉丸組創業55周年記念セミナー

倉見氏が講演 生涯利益の実現を

㈱吉丸組（吉丸泰生社長）は17日、鹿児島市のアーバンポートホテル鹿児島で創業55周年記念セミナーを開き、従業員や協力会社など多数が建設業の生き残りをかけた貴重な講演に耳を傾けた。

講演に先立ち、吉丸社長が「きょうという日を迎えられたのも従業員や協力会社、各関係機関の皆様のおかげである。会社はコマと一緒で回り続けないとならない。コマの芯にあたるのが会社理念である。本日の講演会を通して同じ理念を抱き、志を一つにするきっかけとしてほしい」と挨拶。

講演は『生き残りの道はこれしかない！建設復興』『建設業界への最終通告！進化か消滅か』の著者でCBCCグループ代表の倉見康一氏を講師に迎え、「建設業、その新しい進化への道筋とは」と題して、各県の成功事例をもとにこれからの建設業のあり方と経営者・従業員の意識改革を中心にレジュメを使って分かりやすく解説。特に生き残りの選択肢として「地域に密着し、顧客の生涯利益の実現を目指していくことが大事」などと力説し、参加者らはメモを取るなど真剣な眼差しで聴き入っていた。

最後に、吉丸社長が「きのうよりもきょう、きょうよりもあす、一歩一歩を踏み出していくことで未来が開ける。ここに集まりの皆さんと志を一つにして今から頑張っていきましょう」と結んだ。

「建設業、その新しい進化への道筋とは？」
講師 倉見康一先生

志を一つに――と挨拶する吉丸社長＝鹿児島市のアーバンポートホテル鹿児島で

南種子町の建設会社
8社がボランティア

清掃に心地よい汗

南種子町内の建設会社8社（30人）による町内ボランティア作業が19日、同町の町道長谷・平山線と林道焼野・田代線で道路復旧で行われた。参加者らは、道路の整地や除草作業などに心地よい汗を流した。

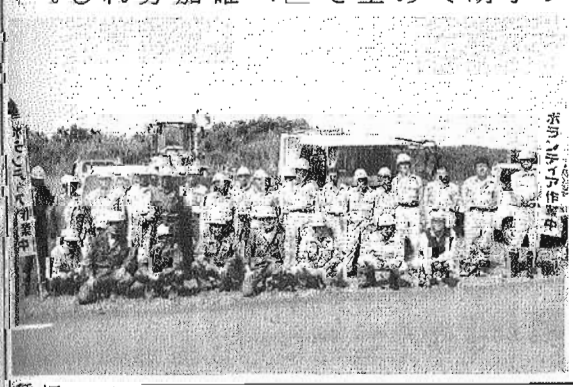
当日は、作業を前に㈱鹿児島グリーン綜合建設・種子島支社の宮田明久支社長が「くれぐれも事故のないように安全第一で作業していただきたい」と挨拶。次いで、作業内容等を確認した後、参加者らは2班に分かれてそれぞれの現場へ移動し作業を開始した。

町道長谷・平山線では、除草作業や空き缶拾いなどを行った。また、林道焼野・田代線では、道路復旧のための整地や除草作業などを実施。参加者らは約6時間の作業に心地よい汗を流した。

作業終了後は、㈲上浦工務店の倉庫で作業の慰労と参加企業の親睦を兼ねた慰労会が参加者全員により盛大に開かれた。

参加業者は次の通り。

㈲上浦工務店　㈱鹿児島グリーン綜合建設種子島支社　姫内建設㈱　㈲前田建設　稲建設㈱　㈲崎田建設　㈲武富建設工業　㈲弘建設興業



作業を前に記念写真に納まる参加者ら＝南種子町の現地で

五月産業がボランティア活動

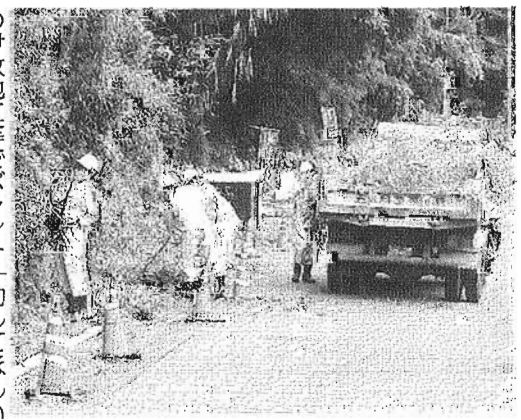
伊敷地区で除草作業

五月産業㈱（池田安則社長）は17日、鹿児島市の伊敷地区等でボランティア活動を実施、参加した約70人は除草作業やごみ拾いなどに汗を流した。

作業を前に、池田社長は「日ごろから地域住民に対して迷惑を掛けているため、少しでもお役に立てるよう心を込めて活動してほしい。くれぐれも事故等ないように安全第一で作業を」と挨拶。作業内容等を確認後、担当個所に移動し作業を実施した。

今回は、小野地区、伊敷地区、下伊敷地区の3カ所で実施。参加者は、除草作業をはじめ、ごみや空き缶、ペットボトルなどを手際よく拾い集めた。

同活動は、社会貢献活動の一環として実施しているもので、今年で10回目。池田社長は「奉仕作業等を通じて少しでも地域に貢献できれば幸い。今後も何らかのかたちでボランティアを続けていきたい」と抱負を語った。



除草作業に汗を流す参加者＝鹿児島市の現地で